

2021年3月期（第20期） 第2四半期決算説明会

2021年11月4日

株式会社ジーダット



会計方針の変更

当**2021年3月期（第20期）**の期首から収益認識会計基準等を適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

特に**TBL（Time Based License）**製品等の売上計上方法を、契約期間に亘る月次按分計上からライセンス部分相当額の一括計上に変更した影響で、当第**1**四半期における売上高と利益は、従来契約期間に亘って月次で計上していた契約が一括計上されるものがあることから影響を大きく受けましたが、第**2**四半期累計期間においては徐々に平準化されつつあります。

1. 2022年3月期 第2四半期決算概要

2. 下期拡販戦略と今後の取り組み

3. 2022年3月期 通期予想

2021年3月期第2四半期決算のポイント

売上高 前年同期比：1.1%減

営業利益

前年同期比：21.5%増

経常利益

前年同期比：36.1%増

四半期純利益

前年同期比：55.7%減

自社開発製品の大型商談獲得により利益率が拡大

代理販売製品の減少と国内FPD市場の縮小等で売上高が横ばい

コロナ下の経費自然減に加えて経費削減の施策により固定費圧縮

上半期実績 – 前年同期比・計画比 –

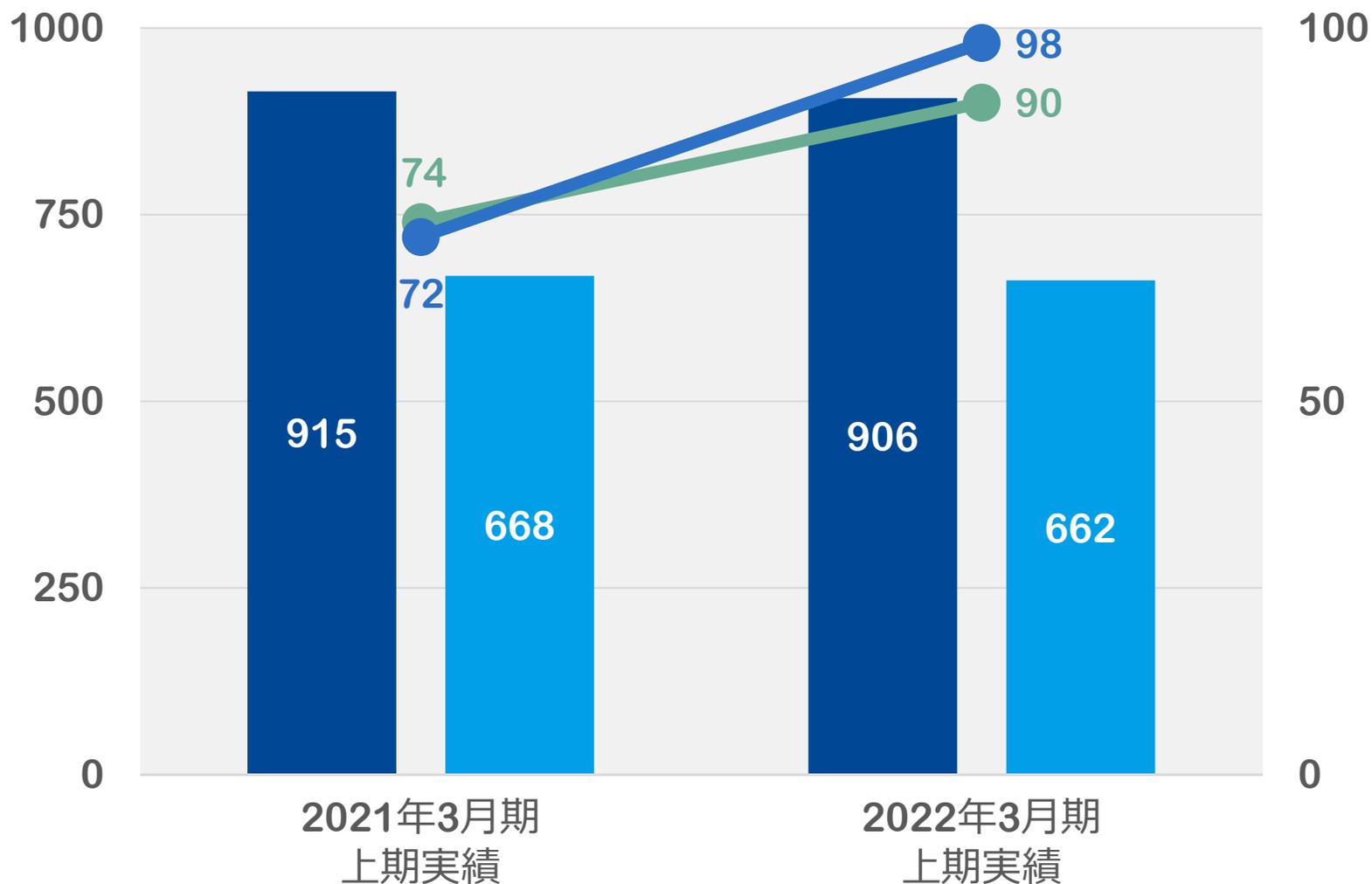
(単位：百万円)	2021年3月期 上半期実績	2022年3月期上半期			
		期初計画	実績	前年 同期比	計画比
売上高	915	993	906	△ 1.1%	△ 8.8%
売上総利益 (率)	567 (62.0%)	560 (56.4%)	604 (66.7%)	+ 6.5%	+ 7.9%
販売費及び 一般管理費	492	489	513	+ 4.2%	+ 5.0%
営業利益	74	71	90	+ 21.5%	+ 27.4%
経常利益	72	71	98	+ 36.1%	+ 38.5%
四半期純利益	48	47	21	△ 55.7%	△ 54.3%

支払い済み
外国税を
一括計上

上半期売上高・利益 – 前年同期比 –

(単位：百万円)

■売上高 ■固定費 ●営業利益 ●経常利益



大型商談獲得による
利益率アップに加え
固定費圧縮により、
営業利益・経常利益
が伸長

貸借対照表 – 前期末比 –

(単位：百万円)	2020年 3月末	2021年 9月末	差異		2020年 3月末	2021年 9月末	差異
(資産の部)					(負債の部)		
I 流動資産	3,142	4,012	869	I 流動負債	418	1,276	857
1 現金及び預金	2,713	3,592	879	1 買掛金	31	62	30
2 受取手形及び売掛金	172	203	30	2 未払法人税等	34	55	21
3 電子記録債権	172	173	0	3 賞与引当金	76	80	4
4 仕掛品	3	3	0	4 前受金	189	990	801
5 原材料	1	0	△ 0	5 その他	86	86	△ 0
6 その他	78	38	△ 40	II 固定負債	6	6	–
				資産除去債務	6	6	–
II 固定資産	209	232	22	負債合計	424	1,282	857
1 有形固定資産	46	42	△ 4	(純資産の部)			
2 無形固定資産	7	8	0	I 株主資本	2,927	2,962	34
3 投資その他の資産	155	181	26	1 資本金	760	760	–
(1)投資有価証券	79	74	△ 5	2 資本剰余金	891	891	–
(2)繰延税金資産	33	66	32	3 利益剰余金	1,303	1,337	34
(3)その他	41	40	△ 1	4 自己株式	△ 28	△ 28	–
				II 新株予約権	0	0	–
資産合計	3,352	4,244	892	純資産合計	2,927	2,962	34
				負債純資産合計	3,352	4,244	892

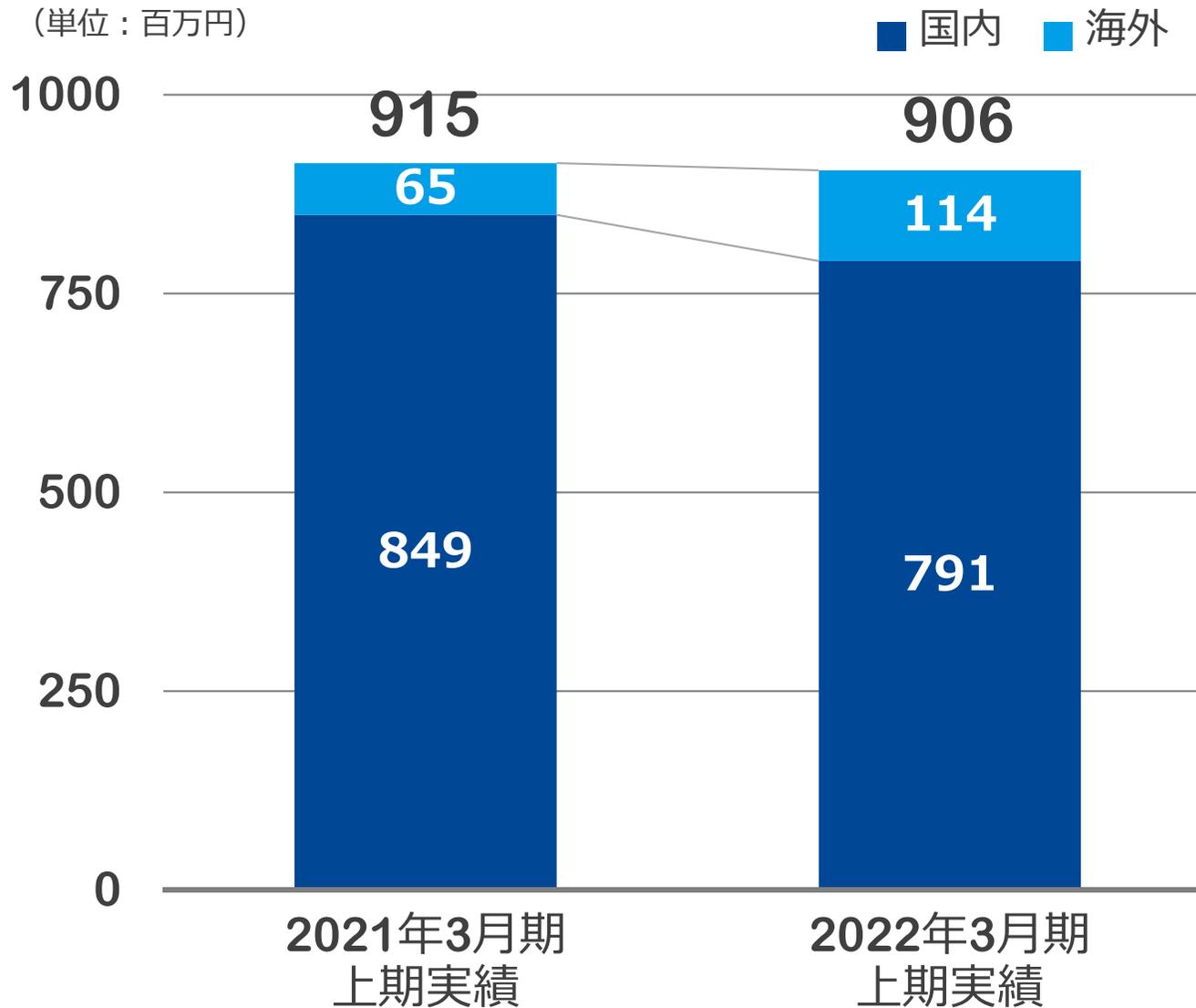
キャッシュフロー計算書 – 前年同期比 –

(単位：百万円)

	2020年4月1日 ～ 2020年9月30日	2021年4月1日 ～ 2021年9月30日	差異
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	157	920	762
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 11	△ 2	△ 8
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 36	△ 38	△ 1
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 0	0	0
V 現金及び現金同等物の増減額(減少：△)	109	879	769
VI 現金及び現金同等物の期首残高	1,793	1,785	△ 7
VII 現金及び現金同等物の期末残高	1,902	2,664	762

地域別売上高（国内/海外）

— 前年同期比 —



大型商談獲得により海外
市場向けが大幅伸長

海外

+ 48
(+74.3%)

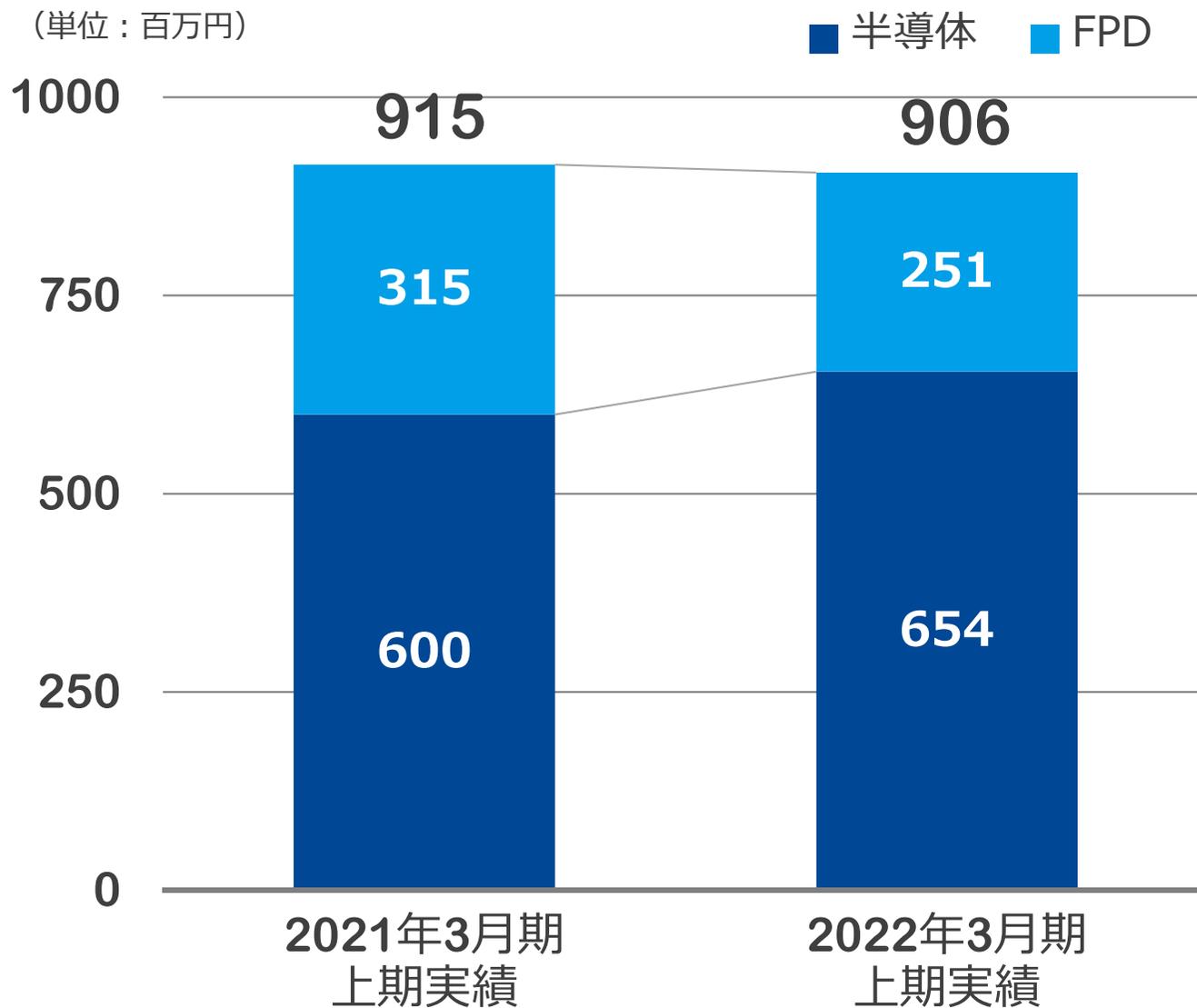
国内

△ 58
(△6.9%)

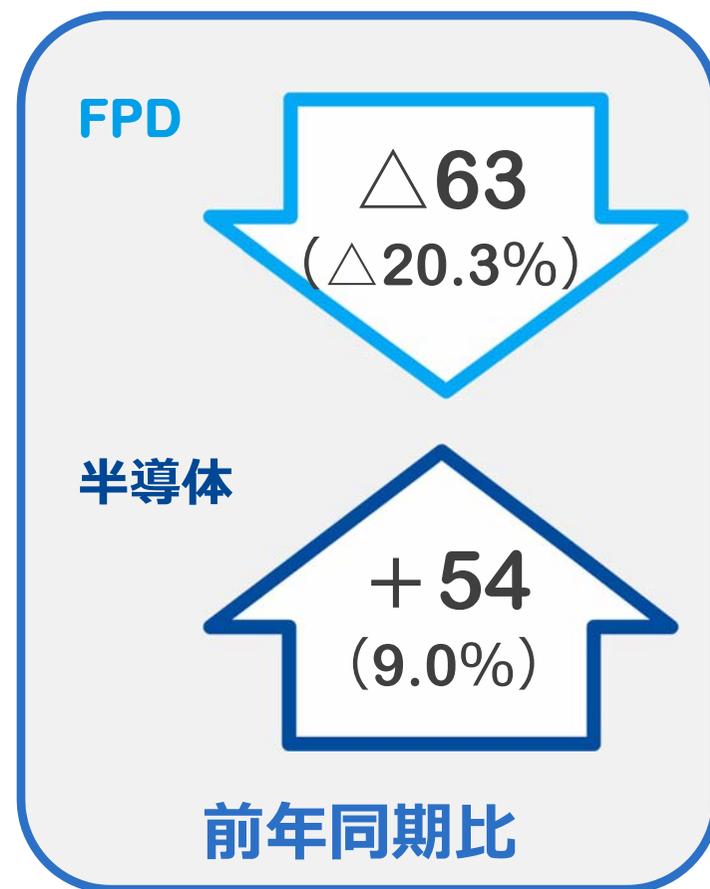
前年同期比

市場別売上高（半導体/FPD） – 前年同期比 –

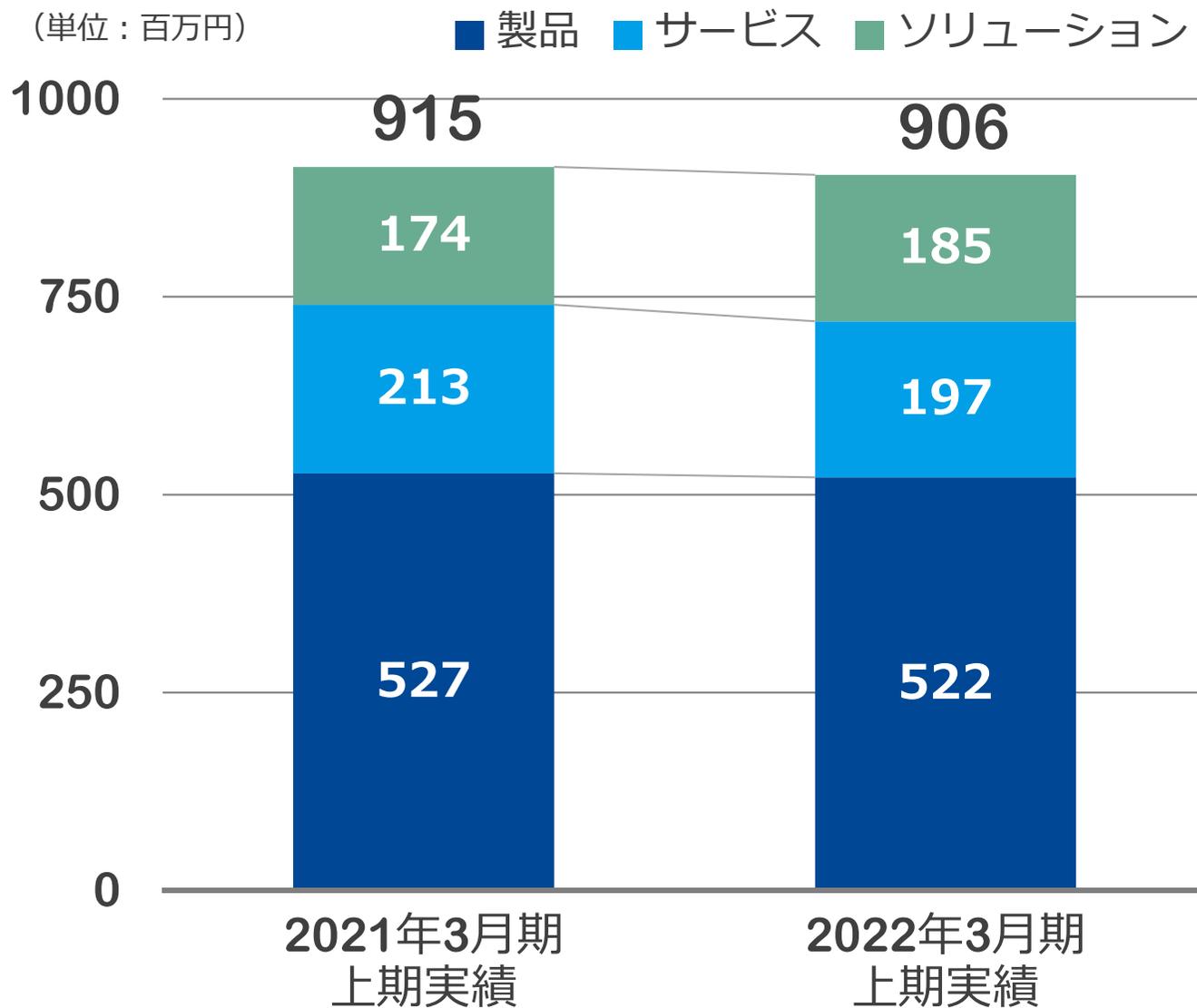
(単位：百万円)



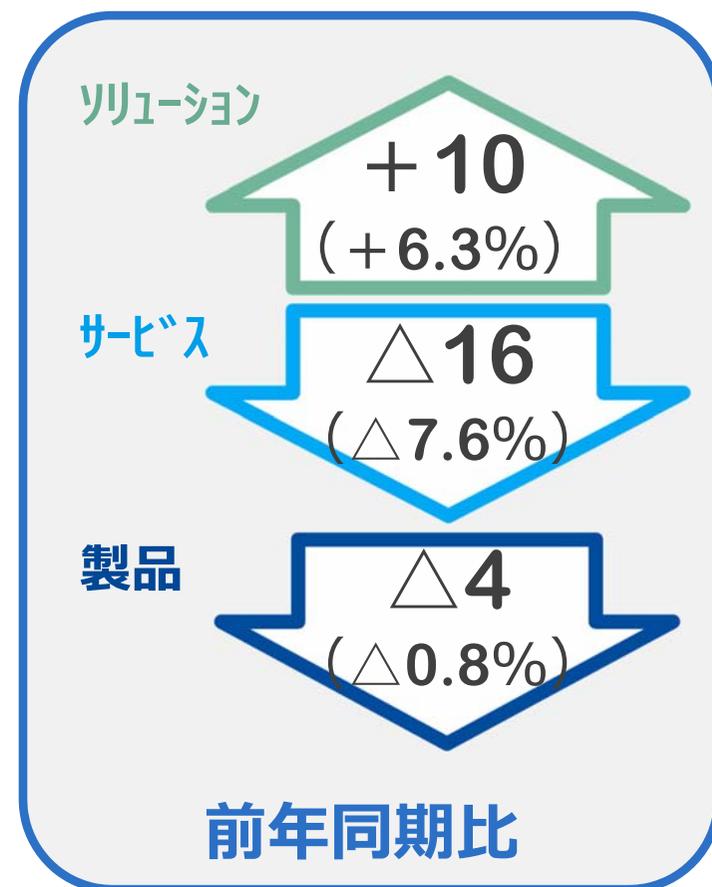
国内FPD市場縮小の影響
によりFPD市場向けが減少



事業別売上高（製品/サービス/ソリューション）－前年同期比－

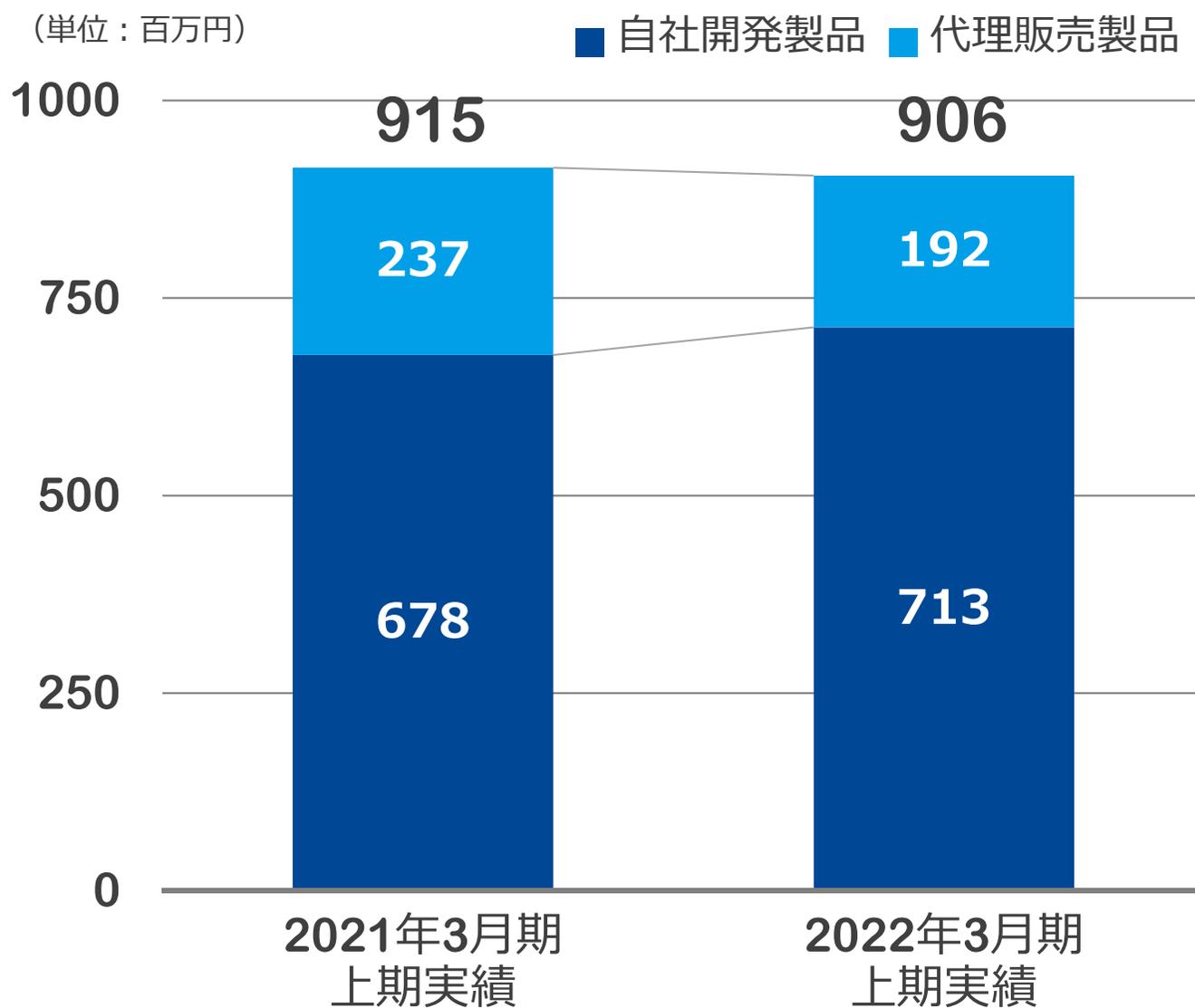


デバイス設計受託が回復し
ソリューション売上が伸長



製品区分別売上高（自社開発/代理販売）

－ 前年同期比 －



代理販売製品のベンダと種類が減少

代理販売
製品

△44
(△18.9%)

自社開発
製品

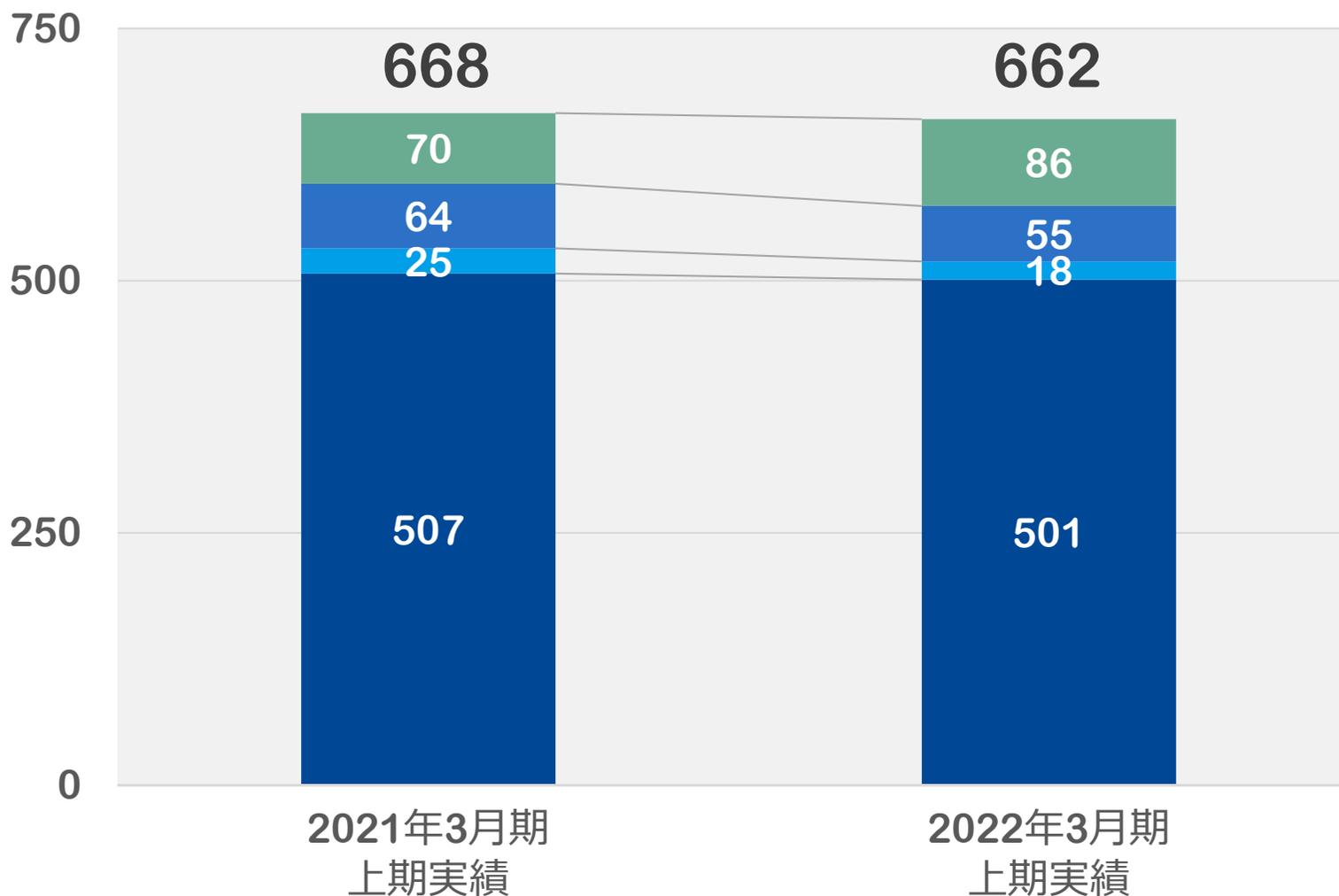
+35
(+5.2%)

前年同期比

固定費内訳 – 前年同期比 –

(単位：百万円)

■ 人件費 ■ 外注費 ■ 建物関係/減価償却費 ■ その他経費



コロナ禍による経費
の自然減に加えて、
不要不急の経費圧
縮も実施

上半期概況

半導体

- ◆全体としては「半導体不足」で好調
 - ◆各社とも生産量の増強が急務となっている
 - ◆製造設備への投資には強い意欲を示しているが...
設計量の拡大（≒EDAに対する投資）には即結びつかない

FPD

- ◆全体としてはコロナ禍の落ち込みから回復
 - ◆国内パネルメーカーの相次ぐ撤退で国内FPD市場が縮小へ
 - ◆スマホ向けは有機ELシフトが加速

トピックス

- ◆ **SX-Meister V11.0をリリース**
 - ◆ アナログLSIの設計自動化機能を新規リリース
 - ◆ パワーデバイス解析機能の拡張＋性能アップ
- ◆ **オープン・イノベーションを更に拡張**
 - ◆ 弘前大学と車載半導体の信頼性研究の提携を強化
 - ◆ 北九州大学と半導体設計自動化の共同研究を開始
- ◆ **大型商談の獲得**
 - ◆ 自社開発製品に関する海外顧客との大型商談を獲得
(約8億円／5年間)

1. 2022年3月期 第2四半期決算概要

2. 下期拡販戦略と今後の取り組み

3. 2022年3月期 通期予想

下期拡販戦略と今後の取り組み（1）

◆ 製品開発・販売

- ◆ 主力製品の更なる機能強化と販促活動の強化
 - ・ 新規リリース製品の販促・情報発信活動を促進
 - ・ パワーデバイス設計向けツールの販促活動を強化
 - ・ 国内外の大学企業とのオープン・イノベーションを拡大
- ◆ 海外市場向け販促活動を促進
 - ・ 半導体市場に向けた開拓活動を開始
 - ・ 代理店／協力会社の見直し・再編

下期拡販戦略と今後の取り組み（2）

◆ ソリューション・ビジネス

◆ EDAソフトウェア受託サービスの増強

- デバイス製造装置メーカーとの連携継続
- 設計自動化環境のエンハンス

◆ デバイス設計受託サービスの拡張

- 国内既存顧客の設計ライン数の拡張を目指す

1. 2022年3月期 第2四半期決算概要

2. 下期拡販戦略と今後の取り組み

3. 2022年3月期 通期予想

2021年3月期 通期のポイント

主力製品の機能強化継続と情報発信活動の活性化

営業／販売促進活動：リモート主体→ハイブリットへ

新規代理販売製品の発掘／開拓／販促活動

引き続き固定費圧縮を実施

通期予想 – 前年同期比 –

	2021年3月期 実績	2022年3月期予想	
		期初計画	前年同期比
売上高	1,815	2,000	+ 10.2%
営業利益	134	150	+ 11.8%
経常利益	150	170	+ 12.8%
当期純利益	101	112	+ 10.6%

**ご清聴いただきまして
ありがとうございました**